

立命館宇治中学校・高等学校

アートを通じて、世界に心を開く

IBDP アート（美術）担当 黒川 礼子

皆さんは、「アート」と聞くと一体何を思い浮かべますか？レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナ・リザ』でしょうか。では『モナ・リザ』を見て、何を感じますか？何を考えますか？現代芸術家にオノ・ヨーコという人物がいます。彼女の作品の中で『apple』というのがあります。ガラスの机の上に、本物のリンゴが一つ置いてある、という作品です。この作品も「アート」だとしたら、皆さんは何を感じますか？何を考えますか？

立命館宇治高等学校 IBDP（国際バカロレアディプロマプログラム）のアートの授業は、こんな具合に始まります。『モナ・リザ』と『apple』という一見全く接点のないように思える作品たち。ましてや「こっちはアート、こっちはアートではない」といった意見も出てきそうな感じすらします。では「アートとは一体何なのか」、そしてアートを制作するということはどのような活動なのか、制作することが周りの環境や自分自身とどのように関係しているのか、そしてそもそも「なぜアートを制作するのか」ということを考えることからコースは始まります。

「アートとは何か」また「なぜアートを制作するのか」について考える、と言ってもそう簡単にできることではありません。それらについて深く追求するため、IBDP アートでは作品を制作すると同時に IWB（制作探求記録）とよばれるものを作成していきます。作品を制作する

上で、制作技術や作品の主題、影響を受けた芸術家や芸術の流れ、美術史や美術批評における自己研究を記録し、「私のアートとは何か」そして「なぜ私はアートを制作するのか」という問いに対し、自分なりの答えを導き出していくのです。

IBDP でアートは教科群グループ 6 に属し、生徒たちはアートの代わりに各自の選択科目を選び履修することもできます。アートを選択する生徒には大学でアートを専攻したい生徒から、そうでない生徒まで様々です。しかし、アートを選択する生徒は全員が作品制作と同時進行で IWB を記録し、18ヶ月に渡るプログラムの最後には、プログラム履修期間で制作した作品を使い、作品展を開きます。そして、それらの作品及び IWB が試験官により評価され、IBDP アートの成績が決まります。つまり「私のアートとは何か」そして「なぜ私はアートを制作するのか」という点をいかに探求するかで成績が大きく左右されると言っても過言ではないのです。自分の作品展を行うことは、多くの生徒にとっては初めての経験となります。ましてや生徒の中には、

制作した作品を他人に見せることすら初めは躊躇してしまう子もいます。しかし立命館宇治高等学校における IBDP アートでは、作品を制作する毎に批評会を行い、最後の作品展に備えます。批評会では単に作品の発表を表面的に行うだけでなく、「作者にとってアートとは何か」「なぜアートを制作するのか」といった内容について深くディベートを行います。

私が授業の中で生徒によく言うことがあります。それは「アート」とは、人と人を繋ぐコミュニケーションだということです。これは制作する側と鑑賞する側が作品という形の「アート」を通じてコミュニケーションをとるという意味です。そのため制作する側は、自分が考えたこと、感じたこと、自分のアイデアや主題となるものをどのような用法、形、色などで表せば、鑑賞する側にどのように伝わるのか、ということに敏感にならなければなりませんし、それと同時に自分自身が鑑賞する立場に立つこと、また鑑賞される立場に立つことも必要となります。それを実際に体験できるのが批評会であり、作品展となります。それらの経験を経て、ただ作るだけのアートから、考えるアートへと変わっていくのです。

北米をはじめとする海外の美術系大学で学ぶことを希望する生徒たちは、作品制作のみならず、哲学や社会学を含めた総合的な芸術学、美学を学ぶ下準備、およびそれらの基礎の部分も IBDP アートで培わなければなりません。「美とは何か」「芸術とは何か」の根幹の部分アカデミックに学ぶ準備をするのです。立命館宇治高等学校では、それらの準備を行うのに十分な施設とサポートが整っています。施設に関して言えば、絵画や立体だけでなく、陶芸や写真、版画などの作品制作に取り組める環境があります。美術以外のサポートに関して言えば、留学したい生徒や帰国生に対するサポート、またそれらの豊富な情報を提供してくれる国際センターや、海外の進路に対する進路指導員など、学校全体に広く生徒の支援体制が整っています。バイリンガルの教職員の割合も高く、英語で学べる環境の中、生徒たちが英語圏の大学で学ぶことができるレベルの言語能力を身につけられるよう日頃からサポートを行っています。

では最初の話に戻しましょう。『モナ・リザ』と『apple』です。『モナ・リザ』がなぜアートなのか、という点に関しては、ある程度色々な意見が出てくるのが想定できます。『モナ・リザ』は、ルネッサンス期の偉大な芸術家であるレオナルド・ダ・ヴィンチ

